

# 議会だより

# 産山

6月定例会

- 令和元年度産山村内巡視・・・P1～2
- 第3回（6月）定例会議案・・・P3～4
- 一般質問・・・・・・・・・・・・P5～9
- 委員選任同意、編集後記ほか・P10

第6号 令和元年8月発行

## 議員村内巡視を行いました。

4月の議員改選に伴い、新人議員の研修を兼ね、村内の行政施設等の視察を行いました。その後、議員及び執行部で各施設の利活用等について意見交換を行いました。

### 花の温泉館

現在花の温泉館は、赤字経営等により休館しており、今後の運営方法や施設改修の方向性について、早急に議論を深める必要があります。

今回の視察では、既存の施設を有効活用し、改修の方向性を探るべきという意見が多数を占めました。今後、改修について、検討していく事になりました。



花の温泉館内

### 池山水源

6月補正で計上された池山水源内のベンチ改修及び樹木剪定（予算額591千円）の現状を視察しました。駐車場内の公衆トイレ周辺に植栽されている樹木の枝葉が接触し、建物を傷めている現状が確認できるため、早急に着工するように執行部に求めました。



池山水源ベンチ

## 令和元年 第3回（6月）定例議会の会期日程

6月定例会が6月14日に開会し、18日に閉会しました。令和元年度一般会計予算・特別会計予算など議案10件、報告4件、承認1件、同意3件、委員会発議1件、議員発議1件が審議されました。

報告第2号	平成30年度産山村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	原案報告
報告第3号	平成30年度産山村簡易水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	原案報告
報告第4号	平成30年度産山村一般会計事故繰越し繰越計算書の報告について	原案報告
報告第5号	「株式会社うぶやま」の経営状況報告(平成30年度第4四半期)について	原案報告
承認第5号	産山村過疎地域自立促進計画の一部変更の承認について	全議員が原案承認
議案第19号	産山村事業分担金徴収条例の一部を改正する条例について	全議員が賛成可決
議案第20号	国営大野川上流地区土地改良事業の農業用排水施設の管理に関する条例の制定について	全議員が賛成可決
議案第21号	令和元年度産山村一般会計歳入歳出補正予算(第1号)について	全議員が賛成可決
議案第22号	産山村介護保険条例の一部を改正する条例について	全議員が賛成可決
議案第23号	令和元年度産山村介護保険特別会計歳入歳出補正予算(第1号)について	全議員が賛成可決
議案第24号	熊本県市町村総合事務組合理約の一部変更について	全議員が賛成可決
同意第4号	産山村監査委員の選任について	全議員が賛成可決
議案第25号	「株式会社うぶやま」の株主総会における議決権の行使について（取締役の選任）	全議員が賛成可決
議案第26号	「株式会社うぶやま」の株主総会における議決権の行使について（監査役の選任）	全議員が賛成可決
議案第27号	「株式会社うぶやま」の株主総会における議決権の行使について（監査役の選任）	全議員が賛成可決
同意第5号	産山村教育委員会委員の任命について	全議員が賛成可決
同意第6号	産山村教育委員会委員の任命について	全議員が賛成可決
発議第1号	「新たな過疎対策法」の制定に関する意見書について	全議員が賛成可決
発議第1号	産山村議会議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	全議員が賛成可決

本定例会で可決された予算以外で主なものについて説明いたします。

- 議案第20号 国営大野川上流地区土地改良事業の農業用排水施設の管理に関する条例の制定について  
大蘇ダムの事業完了に伴い、基幹施設(ダム本体、平川頭首工、導水管)が竹田市、阿蘇市、産山村に国より管理委託され、その施設を管理するため、条例を制定するものです。
- 議案第22号 産山村介護保険条例の一部を改正する条例について  
今回の条例改正については、消費税増税に伴う介護保険料の(第1段階～第3段階)第1号保険者の軽減が強化されます。
- 発議第1号 産山村議会議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について  
村内で行われる議員会議日当については、平成31年4月29日まで支給停止としておりましたが、議員全会一致で次の議員改選まで引き続き支給を停止とすることとなりました。

### ヒゴタイ公園 キャンプ村

6月補正で計上されたロッジ5棟（平屋建て）の解体費（予算額6,215千円）について、現状の確認を行いました。

説明では、このロッジは、老朽化が激しく、狭いなどの理由から利用客に不評であるため、解体し新築したいとの事でした。視察の結果、再利用すべきとの意見が多数を占めましたので、本件については、増築及び屋根の吹き替え、老朽化部分の補修を行うこととなりました。予算については9月補正で組み替えることとなりました。



ヒゴタイ公園ロッジ

### その他視察した箇所

- ・止り山里山住宅
- ・片俣地区災害現場
- ・ファームビレッジ産山
- ・片俣阿蘇神社
- ・大蘇ダム
- ・山吹水源
- ・御湯船温泉館
- ・産山学園



止り山里山住宅



片俣阿蘇神社

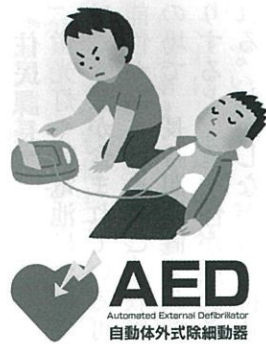


大蘇ダム



産山学園

《井春夫 議員》  
夜間や休日でも自由に使用可能か伺う。  
《住民課長》  
役場はすぐ持ち出しができるよう玄関の付近に置いてある。また、公民館や日向詰所、なでしこの里など夜間職員が常駐している施設は利用できる。  
《井春夫 議員》  
医療機関の遠い産山では、AEDの効果は非常に大切なものと考えており、常に



《井春夫 議員》  
また、年に1度、授業参観日に阿蘇広域消防本部の講師による児童生徒、保護者及び教職員のAEDの講習会を実施している。  
《井春夫 議員》  
産山で育った子ども達も、救急救命が必要な場面に直面した時、迷わずに人を救う行動がとれるようになれば、社会で役割を持てる人に育つ思いと救急救命教育を、学園生徒を含め村民が定期的に実施していくよう希望する。

**●AEDと救急救命教育について**

井春夫 議員

《井春夫 議員》  
AEDは、役場、診療所、公民館、産山学園等に13カ所設置している。また、今年度は、ヒゴタイ公園キャンプ村とファームビレッジ産山の2カ所にAEDを設置する予定。民間企業を含め、今年度中には18カ所となる見込み。  
《井春夫 議員》  
また、年に1度、授業参観日に阿蘇広域消防本部の講師による児童生徒、保護者及び教職員のAEDの講習会を実施している。

《井春夫 議員》  
環境教育は、環境や環境問題に対する興味や関心を高め、必要な知識・技術・態度を習得させるために行われる教育活動で、体験的学習法を取り入れている教育であり、産山学園では、「うぶやま学」が環境教育に匹敵するものと考えている。しかし、「うぶやま学」自体がイベント化し過ぎて、教職員の負担になっているのではないかと思う。

《井春夫 議員》  
自然豊かな産山で生まれ、自然という大きな資源を大切にしながら、豊かな人間性、健康、体力、確かな学力など、生きる力を身につけて、豊かな人格を育み、ふるさと産山に誇りを持つ人間形成のため、「うぶやま学」を単なる見せかけではなく、本来の環境教育の形「自ら課題を見つけて、学び、考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決する資質や能力を向上させること」によって、生きる力の育成と結びつけること」にすべきではないかと思うが、考えを伺う。



《星山晃 教育長》  
学園では、身近な環境への関心と理解を深め、環境とのふれあいを通じて、環境に優しい心情を育むとともに、環境を大切にしていることとする態度を育成する目標を推進している。  
環境教育の4つの視点【環境の現状の認識、環境との関わり方の理解、環境にやさしい暮らし、快適な環境の創造】これをもって、各教科、道徳や学級活動、生徒会活動、学校行事、「うぶやま学」の中でも行っている。

《井春夫 議員》  
環境教育活動は、産山の農業、林業、畜産業にとどまらず、防災、あるいは水の問題、地域産業や川下・川上問題、海洋汚染、ごみ問題等、広範囲にわたっており、学ぶことによって、例えば子ども達に郷土愛をしっかりと根付かせるといってもいいと思う。さらに、産山の豊かな自然を未来の子どもにも引き継ぐためにも非常に大切なことだと思っており、子どもたちが産山で教育を受けて良かったと実感できるように、ぜひ検討をお願いする。

令和元年度 一般会計補正予算(第1号)  
補正予算71,953千円が追加され  
総額19億47,953千円に

■主な歳入

- ・ 農林業費分担金 933千円
- ・ 民生費国庫補助金 2,354千円
- ・ 地方創生推進交付金 2,750千円
- ・ プレミアム付商品券補助金 5,154千円
- ・ 農林水産業費補助金 23,295千円
- ・ 地域づくり夢チャレンジ推進事業補助金 6,666千円
- ・ 基金繰入金 23,270千円
- ・ 過疎対策事業債 5,800千円

■主な歳出

- ・ 財産管理費(庁舎敷地沈下改善工事、喫煙所設置工事、庁舎ネットワーク配線工事) 1,550千円
- ・ プレミアム付商品券発行事業 5,154千円

令和元年10月1日からの消費税・地方税の増税に伴い、低所得者・子育て世帯の消費に与える影響を緩和するため、プレミアム付商品券の発行を行うものです。  
対象は、住民税が非課税である者、平成28年4月2日から7月31日に生まれた子が属する世帯の世帯主が対象です。  
詳細につきましては、うぶやま広報7月号折込を参照ください。

定住促進空き家活用事業 10,500千円

空き家住宅を活用し、定住用住宅として改修する事業で、2棟(産山地区・大和地区)を改修します。

介護保険特別会計繰出金 1,700千円  
幼児教育無償化システム改修委託 1,620千円  
総合健康管理システム改修委託 659千円  
中山間地域所得向上支援対策事業 3,997千円

有害鳥獣対策のため、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置補助を、昨年に引き続き行います。

設置イメージ図【イノシシ対策用】

水田産地化総合推進事業 1,062千円  
熊本県中山間農業モデル地区支援事業 7,000千円

阿蘇草原復興支援事業 960千円  
上妙見地区単県治山工事 2,300千円  
池山水源整備事業 591千円  
ヒゴタイ公園キャンプ村ロッジ解体 6,215千円  
団体営農業農村整備事業 13,000千円  
山鹿地区新井手水路の土水路区間や随道の改修を行います。

大型インクジェットプリンター購入 480千円  
給食センター費(調理員時間外手当、調理室排気フードエアコンフィルター清掃委託、食洗室床修繕工事、検査保存用冷凍庫購入) 1,884千円  
産山地区公民館給湯器購入 400千円  
石尾野橋修繕工事 1,100千円  
農業用施設災害復旧費 1,000千円

■主な歳入

- ・ 介護保険料 △1,470千円
- ・ 介護保険事業費補助金 227千円
- ・ 一般会計繰入金 1,700千円

■主な歳出

- ・ 介護保険制度改正システム改修 454千円

介護保険特別会計補正予算(第1号)  
補正予算457千円が追加され  
総額2億66,557千円に



井芳美 議員

●ごみの分別収集について

《井芳美 議員》

蛍光灯や乾電池類のごみ収集については、大阿蘇環境センター未来館が役場住民課に持込みとなっているが、高齢化により役場まで持込みがされず、そのまま放置されたり、分別しないままごみ袋に入れたりされている。事前にしっかりと分別が行われるよう、地域のごみステーションで回収するなど対応が必要と思うが、村長の考えを聞きたい。

《市原正文 村長》

ご指摘のように、以前に決まったことがずっとそのままとなっており、現在まで指示してきたところである。

今後、高齢化だけでなく、色々な状況を考えると、可燃物や可燃物と一緒に出されるケースもあるのではないかと予想される。

《住民課長》

蛍光灯や乾電池については、水銀が含まれている可能性があるため、ごみ収集の場で、長時間放置されたらすると、危険性が懸念される。しかしながら、持込みに来られないという実情があるため、風雨にさらされないよう回収ボックス等の配置等が必要である。

乾電池や蛍光灯は、頻繁に出るごみではないので、今後、回収場所や回収時期について、各区長等と協議していきたいながら、ご要望に応じられるように考えていきたい。

また、ごみステーションに住民の方が持つて来て、そのまま放置され、蛍光灯が長時間放置されているのを見かけられたら、住民課にご連絡等をいただければ、こちらが回収に行く。

ごみ収集の計画日程表を産山村3月広報に折り込みでおり、その中には収集分別等については記載をしているが、今後お知らせ端末等で分別についての周知をさせていただく。

《井芳美 議員》

ごみ収集箇所の設置が少なくごみが多すぎて場所が足りない箇所が考えられる

ため、調査をお願いする。

《市原正文 村長》

ごみの収集については、ごみを減らすことも考えていかなければいけない時代になっている。

今おっしゃられたような乾電池と蛍光灯に対しては、村がきちんと収集するシステムを作っていくかなければならない。

ただ、収集するのではなく減らすことも考え、必要なものについてはしっかりと行政も取組んでいく。

《井芳美 議員》

今度、生ごみについては、生ごみを発酵させ畑の肥料にすることで、燃えるごみを減らせるので未来館に持込む量も減ると思うがどうか。

《住民課長》

産山村当初予算説明書に掲載しているが、生ごみ処理機購入補助を行っている。今後、広報等に折り込み、未来館へのごみの持込みを減らすため、周知していきたい。



●花の温泉館について

《井芳美 議員》

花の温泉館は、第三セクターから村営として経営移譲し、赤字が解消されないため、現在は休館となっている。一昨年9月の議会でも温泉館を新設する決議がされ、視察研修も行っているが、執行部においては、震災以降の事業費のコスト高により、予算の範囲内での事業が実質困難なことから、予算を凍結し、現在、地域住民との議論を深めている最中であると聞いている。村長は、3月の一般質問で、「本年度中には結論を出したい」と答弁されているが、地域住民との意見交換等で取りまとめた意見書を受けて考えられる花の温泉館の活用方法をどのように考えているか。

ところで、その内容について十分な内容でなかったというところで、3月議会にて、改めて協議していきたいと提案したところである。

新しい議会の中で引き続き議論し、村としては、ぜひ継続したいという考えのもと、今回の議会でも現場を見ていただき、新築あるいは改修といった事も含めて、方向性を決めていきたい。

住民の方々と協議し、経緯や事業等の内容について説明をさせていただいた。

しかし、この温泉館を整備するには、それだけの事業費もかかり、そういったことを軽減しながら検討していかなければならない。村としては、方向性をきちんと定め、再建していきたいと考えているが、議会と今後協議し、ご理解をいただきたいながら進めていきたい。

《井芳美 議員》

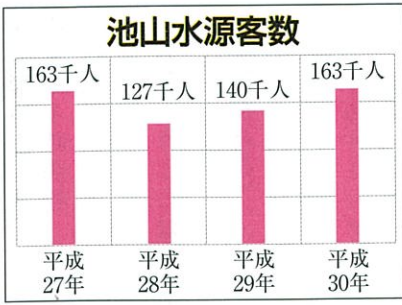
産山村に、独居老人70歳以上の方は、何人いるか。

《住民課長》

現在、82名の方がおられ、女性が44名、男性が38名。また、高齢者世帯も104世帯で、222名である。

《井芳美 議員》

このように産山村には一



《企画振興課長》  
道路を通る観光客の数は、正式には把握していない。ただし、推計として、池山水源を訪れる観光客の観光統計日帰り客数は次のとおりである。

《井芳美 議員》

これだけの観光客の方々が訪れている観光ルートに1年半も廃屋としている。建物をそのままにして別な所に新しく建てること自体が納得出来ない。現在ある建物をどうするか？ 私としては、現在の温泉

館をリホームしてもらいたい。村民の方々においては、温泉に集まっていたら、昔話をして楽しんだり、体力作りしたりする場所、また、子供も遊べる場所として、有効活用してもらいたい。

それと同時に、利益を産まなければならぬので、簡易宿泊も設置していただきたい。

《市原正文 村長》

今回、議員の皆様方に村内巡視の折に現場を見ていただいで、結論を出していただければいけないということ、先般お話をさせていただいた。

そういった中で、村としては、あそこに廃屋を残すわけにはいかない。どういう方法が一番いいのかについて、議員の皆様方に議論をしていただき、結論を出していきたいと思っている。

これは、地域の方々も一生懸命考えていただき、温泉館が存続できるように皆さんと一緒に整備していくことが非常に大切である。先般、女性の会の皆様方

と議論や意見を交わし、非常に地域を思う心、思いやりも感じたところであり、そのことは、ほかの議員さんにも理解していただけると私も思っているところである。

《井芳美 議員》

ただいまの意見を聞いて安心して。

今後は、女性の意見を色々と取り入れていただいで進めていただきたい。



城本俊成 議員

●村人口動態の変遷、それに伴う諸問題について

《城本俊成 議員》

村の人口の推移を過去30年、10年単位でどれだけの動きがあったのか。それから、今後20年先の予想人口を10年単位で尋ねる。

《総務課長》

過去については国勢調査、現在については住民課の住民基本台帳、そして10年後、20年後については、産山村の未来計画で使用している



《城本俊成 議員》  
抗わなくてよいか。

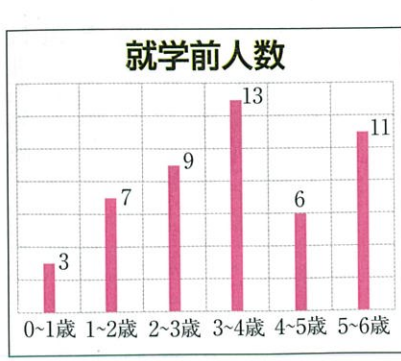
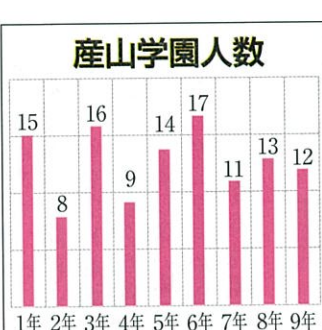
《総務課長》

村の活性化や地域の衰退、学校教育、そして医療関係つまり、国保、介護、保険、保険料等、行政としては喫緊な村の最重要課題である。

《城本俊成 議員》

今後の産山学園に入学する予定人数を尋ねる。

《教育委員会事務局長》



《城本俊成 議員》

産山学園は義務教育学校として、ICTを活用して、保小中一貫教育という、県下でも例を見ないような先進的な学校であるが、今後10名以下で複式教育も危惧される。何か対応策は考えられているか。

《星山晃 教育長》

現状は微減。少人数化が進めば、話し合い活動が低調になり、学級減になれば、教職員の定数減も想定しなければならぬ。

対策を講じる必要がある。一番の課題は、子どもの数が少なくなると、地域社会の意欲と活力がそがれる。学校・家庭・地域の組織的な連携、協働体制をしっかりと構築し、産山村の保育や学校教育の良さ、魅力を内外に発信し、産山で子育てや学ばせたいという、教

●農業振興について

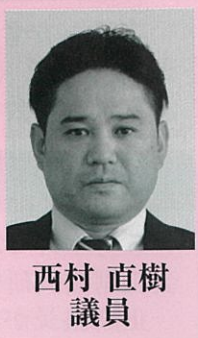
《西村直樹 議員》  
平成30年度から第3期の農業振興推進事業として、予算1,400万円の補助金を出しているが、新規就農の申請額の最大が600万円で、2名の方が申請した場合、後の申請者は200万円しか残らないという計算になる。

そこで、そういう場合に対しては、補正により増額すべきと考える。

また、5月の事業説明会に参加したが、参加者が少ないような気がしたので、農家の方々への事業の周知が大切だと感じた。

そういった中で、村長のお考えを伺いたい。

《市原正文 村長》  
農業振興については、中山間地域等直接支払制度や農業次世代人材投資事業、多面的機能支払事業など、国・県の様々な制度を活用して、現在取り組んでいる。その補助事業の対象でな



西村直樹 議員

の到達時間を短くすることで、ベッドタウンも想定しながら、今後、総合計とあわせて未来計画をしっかりと立てることが重要と考える。

《城本俊成 議員》  
今現在、20代、30代、40代の独身者の方は、どれくらいおられるか。

《住民課長》  
個人の問題ではあるが、村長の冒頭の挨拶の中で、自助・共助・公助という観点からこれだけの独身者に対して何らかの手立ては考えられないか。過干渉にならない程度に、お世話が行き届く女性たちのパワーを利用する等のムーブメントを起こせないか。

《市原正文 村長》  
村でも数年前から婚活事業に取り組んでいる。成功した例も若干ある。これだけの人数がいるので、村と

いものについては、村単独の農業振興事業として取り組んでいる。

この補助金の増額についてだが、第2期にあたる平成28年度から要綱を改正し、予算の範囲内で実施している。

以前は、増額した経緯があったが、やはり単独事業である以上、際限なく増やすのは難しい。

新規就農者や特別な理由による場合、協議すれば、という考えもあるが、現時点では、予算の範囲内となっている。

村も単独事業となると、財源確保が必要であり、それを継続可能な限りやっていく必要がある。

本村の基幹産業である農業の従事者が増えることは、人口減少対策にもなり、そういう点では必要不可欠である。

そのため、国・県の事業に該当しないものを網羅しながら、現在、補助制度を創設し、新規就農、特にそういういったものについて、現在の要綱と照らし合わせて進めている。

様々な意見がある中で、限られた予算を有効に使うという意味から、ぜひそう



しては、できるだけ結婚していたら、人口増に少しでもつながればと、これはなかなか押しつけがましいという点も考慮しながら、そのような方法も検討させていただきたい。

《城本俊成 議員》  
独居老人が82名、それから高齢者世帯104世帯の222名、つまり304名の方が単独でお暮らしであるとのこと。表に出ない独居老人の方々、高齢者の方々を過干渉せずに健康かどうかを見極めて、地域の皆でハンカチを掲げる作戦は検討できないか。

《健康福祉課長》  
見守りネットワークについて、地域包括ケアシステムという大きな括りの中で、在宅医療や介護連携について検討したり、認知症の早期予防についてサロンを開催し、ゴールドクラブなど、高齢者の生きがい支援を行っている、個別的なケースを検討している。

主に毎月1回検討会議をし、事業としては、民生委員による独居高齢者世帯の地域の見守り、社会福祉協議会による牛乳配達事業、ほっと館による、配食サー

●林業補助について

《西村直樹 議員》  
林業関係補助については、単独の農業補助はあるが、林業に関して補助が少ない。現在、林業に携わる人は少なく、自分の山がどのようになっているかわからない状況にある。

そのため、林業担い手育成のため、林内作業用機械等について、補助をしたかどうか。

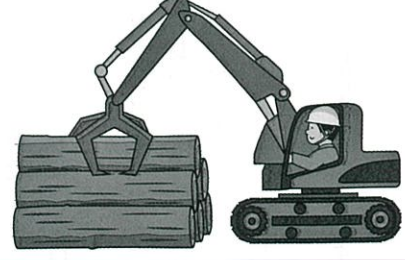
《市原正文 村長》  
現在、各種、国・県の様々な事業に取り組んでいる。

また、村単独事業で、育林事業や林内作業道整備事業など、除伐や作業整備等の事業に取り組んでいるが、機械等については、大型機械も含めて事業はあるとしても、諸条件がある。

村もそういったことに取り組んでいかなければ、山林が整備されないという状況である。

《経済建設課長》  
先ほどの農業振興補助のうち、特用林産品についても補助しているところである。

この中で集材機の補助も検討したが、汎用性が高いということ、対象外とし



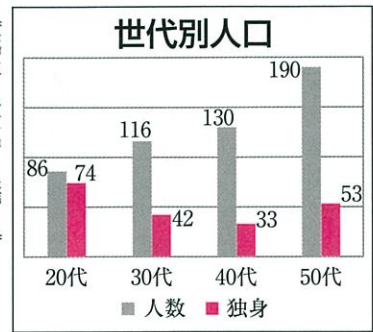
育を移住定住の促進の一つのアイテムにできればと思っている。そういう意味では、保育料の無償化とか、保育園と幼稚園を一体化した認定こども園への移行、そういったアイデアは大きなきっかけと考えている。

《城本俊成 議員》  
高規格道路とトンネルの整備が整うと、大分、熊本市内まで1時間程。親は都市部へ通勤、子どもは、産山学園に通わせる等アピールするということはできないか。

《企画振興課長》  
産山村の人口シミュレーションを行い、毎年、3世帯ずつが毎年1Uターンすると、村の人口はどうか現状を維持できるといふシミュレーションが出ています。

移住定住で、空き家住宅活用、後継者に対する出会い創出等事業、後継者のUターン。村だけで就業するだけでなく、(交通の便が良くなれば)近隣市町村へ通勤ができることから、移住定住を促進していきたい。

《市原正文 村長》  
道路交通網、居住環境の整備等のインフラ整備は重要な課題。やはり市街地へ



《城本俊成 議員》  
個人の問題ではあるが、村長の冒頭の挨拶の中で、自助・共助・公助という観点からこれだけの独身者に対して何らかの手立ては考えられないか。過干渉にならない程度に、お世話が行き届く女性たちのパワーを利用する等のムーブメントを起こせないか。

《市原正文 村長》  
村でも数年前から婚活事業に取り組んでいる。成功した例も若干ある。これだけの人数がいるので、村と

ビスと安心サポートシステムを利用者の許諾により設置し、そこを1日通過することによって安否が確認でき、1日反応しない場合は、テレホンセンターから役場に電話がかかる仕組みをとっている。

《市原正文 村長》  
高齢者をどう見守っているか、一人暮らしを含め、必要な世帯がかなりある。シンブルであるが、今やっていることのほかにも、そういうことをした方がさらに効果があるのならば、やはり検討する必要があると思う。

《城本俊成 議員》  
高年齢者どう見守っているか、一人暮らしを含め、必要な世帯がかなりある。シンブルであるが、今やっていることのほかにも、そういうことをした方がさらに効果があるのならば、やはり検討する必要があると思う。

●害獣対策として 処理場視察のその後

《城本俊成 議員》  
処理場視察のその後を訪問。

《経済建設課長》  
鳥獣被害対策実施隊、認定農業者の会が主催して、竹田市直入町の鹿猪の蔵の狩猟肉加工施設研修を行った。内容等については、捕獲者ごとにさしとめして、捕れるときもあり、捕獲頭数がないときもあり、捕獲頭数がわからないなど一定した品質と量を維持することが

難しく、まだまだ検討する必要がある。

《城本俊成 議員》  
食肉処理場の費用対効果は調査しないといけないが、株式会社うぶやまの販売商品の一つとして、産山特産の猪、あか牛、黒牛入りのプレミアムハンバーグは考えられないか。

また、産山特産商品のアイデアをコンペしてみてもどうか。

《企画振興課長》  
今後は、色んな特産品開発に取り組みなければいけない。野生動物故の品質や量の確保、処理の方法、処理施設も含め、需要があるのかを含め、検討していきたい。

《市原正文 村長》  
ジビエについては、県内に加工施設が3か所ある。加工しながら提供する方法は加工施設が必要だが、課題もある。株式会社うぶやまの体制も整えながら商品開発をして、多くの産山村特産物を提供できるよう取り組んでいき、多く村民が働ける場所にしていくとともに、人口減少対策にもなるかと思う。

## 監査委員の任命について

識見を有する方の任期満了に伴い、吉野 文夫 氏（産山地区）の選任が議会で諮られ、全会一致で同意した。

## 教育委員会委員の任命について

2名の方の委員辞職に伴い、佐伯 公範 氏（産山地区）、工藤 正二 氏（片俣地区）の選任が議会で諮られ、全会一致で同意した。

## 全国町村議会議長・副議長研修

5月28日に東京国際フォーラムにおいて全国町村議会議長副議長研修が開催されました。

正副議長が参加し、「町村議会議員の議員報酬等のあり方や地方議員のなり手不足」についての最終報告がなされ、議員報酬の低さと連動した議員のなり手不足等の深刻な状況について報告が行われました。

翌日29日には、県関係国会議員への要望活動が行われました。



## 熊本県町村議会議長会臨時総会及び町村議会議長研修

6月4日に熊本テルサにおいて熊本県町村議会議長研修会が開催され、前長野県飯綱町議会議長であった寺島 渉 氏の講演が行われました。また、終了後には、熊本県町村議会議長会臨時総会により、本会新役員が決定いたしました。

なお、今回の役員改選により、会長に益城町の稲田 忠則 議長、副議長に美里町の吉田 美好 議長、監事に長洲町の徳永 範昭 議長と本村の西澤 正 議長が選任されました。



## 町村議会常任委員長・議会運営委員長研修会

7月8日にグランメッセ熊本において町村議会常任委員長・議会運営委員長研修会が行われ、本村からは、正副議長及び、各常任委員長委員長が参加しました。研修会では、全国最年少町長となった前徳島県川島町長で、現在は熊本市の政策参与である中村 健 氏による「チーム議会のすすめ」と題した講演会が行われました。



### 編集後記

村内は、一面が緑豊かな景色に変わり青々とした風景が広がっています。この時期の毎年の風景ではございますが、水稲の生育が気になりつつ、今年も災害がなく豊作を願うばかりです。さて、5月に開かれた臨時議会で新たな議体会勢がスタートし、議長、副議長、各常任委員等の活動も開始されました。

今年度新しく議員となられた3名も精力的に活動されており、産山村にフレッシュな風を起こしてくれることを大いに期待します。

6月議会において、一般質問で3名の新人、元議員から質問があり、村の抱える課題等について、執行部の所見や施策の報告を求められました。

広報委員会においてもわかりやすくをモットーに取組んでまいります。

これからいよいよ夏が本番です。村民の皆様どうか御身体を大切に、毎日をお過ごしください。

残暑お見舞いを申し上げ編集後記とします。

#### 広報特別委員

委員長 岩下 德行

副委員長 井 春夫

委員 井 芳美

委員 城本 俊成

発行責任者 議長 西澤 正

編集 広報特別委員会

発行 産山村議会

熊本県阿蘇郡産山村山鹿488番地3

TEL 096712512635